

第3学年 音楽科学習指導案

平成20年10月20日(月) 第2限
場所：音楽室

1. 単元(題材) 混声合唱の喜び(教材:「心の瞳」)

2. 目標

①【音楽への関心・意欲・態度】

歌詞の内容と声部の役割及び楽曲構成のかかわりに関心をもち、意欲的に合唱活動に取り組むことができる。

②【音楽的な感受や表現の工夫】

歌詞の内容や曲想を感じ取り、声部の役割や楽曲構成を生かして、全体の響きに調和した合唱表現を工夫することができる。

③【表現の技能】

声部の役割や楽曲構成を理解して、全体の響きに調和させて合唱することができる。

3. 指導にあたって

(1) 教材観

本題材「混声合唱の喜び」は、学級で混声合唱に取り組む中で、合唱表現の豊かさや美しさを感じ取らせ、合唱の楽しさを味わわせることをねらいとしている。また、第1、2学年の学習における合唱活動を基盤として、さらに確かな表現の技能を身に付けさせ、豊かな音楽表現ができるようにすることを意図している。本題材で取り組んだ教材は11月に行われる文化発表会での合唱曲として歌うことを予定しており、本題材の学習成果の発表の場として位置付けている。教科の学習の成果が学校行事の中で生かされるという点において、生徒の学習意欲も喚起されるものと考えられる。

教材「心の瞳」は、昨年度の3年生が文化発表会で歌った曲で、親しみやすい歌詞とメロディーの美しさに特徴がある、中学生の心に響く一曲として広く歌われている合唱曲である。

(2) 生徒観

県の基礎学力調査では「音楽の授業が好きだ」という質問に「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」という生徒が50%弱しかいない結果であった。先日の本校で行われた授業改善アンケートでは、「音楽の授業がわかりやすく自分を伸ばしてくれる」という授業に対する意欲を聞いた質問で145人中126人が「あてはまる」「だいたいあてはまる」という結果であった。これは前期の授業で、生徒の興味が高く、本校では今まで取り組まなかったギターに取り組んだことが要因の一つとして挙げられると思われるが、前期の授業については前向きな生徒が多かった。

歌唱については運動会の応援練習や音楽の授業では大きな声が出たものの、先日の前期終業式の校歌斉唱の際には、小さな声しか聞こえず、大勢の前で自分を表現するまでには至っていないと思われる。そこで音楽の授業に対して前向きな気持ちを合唱にも繋げ、文化発表会や卒業式で表現できるよう歌唱の力をつけさせたい。

(3) 指導観

合唱活動はその特性から、全員参加による音楽活動の中で、生徒自身が音楽を創りあげていくという体験を実感させやすい活動である。本題材においては、生徒自身が自らが感じたことをもとにして、主体的に考え、音楽づくりをしていくような活動を仕組んでいきたい。具体的には、題材全体を見通し、生徒一人一人が自らの学習課題を意識して、自己評価できるような「振り返りシート」の導入、生徒のアイディアを生かした音楽的な工夫ができるような配慮、自分たちの合唱を客観的に評価し、よりよい表現につなげていくような場の設定と手だての工夫などをその手だてとして、取り組んでいきたい。

(4) 校内研究との関わり

- ・パート練習の際に、自分の歌唱について、うまく歌えた部分とそうでない部分を把握・分析し、次時への課題を意識することができる(思考力)
- ・グループ練習の際に、自分たちの合唱を相互に聴き合いながら、問題点やよりよくなる方法を出し合い、適切な練習方法を取り入れ、改善に努めることができる(思考力・判断力)
- ・グループ練習の発表の際に、自分たちが取り組んできた練習を具体的に述べて、歌唱の発表の視点を明確にすることができる(表現力)

4. 単元計画<別途記載：B-1>

5. 本時の学習（第三次中1時）

(1) 主題（教材）

「心の瞳」（作詞：荒木 とよひさ 作曲：三木 たかし 編曲：滝口 亮介）

(2) 本時のねらい

小グループに分かれて合唱の響きを感じながら、練習方法を工夫して歌おう

(3) 学習過程

時	学習活動(・)と予想される生徒の反応(○)	指導と評価方法(※B→Cへの支援、☆活用力)
1	・本時の課題をつかむ	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題 小グループで合唱活動を行い、他のパートの響きを感じながら歌おう </div>		
3	・パート練習をする ○自分のパートの音程の確認をしよう ○他のパートと合わせるのだからしっかり歌おう ○この部分の音程が今ひとつわかりにくいな	・他のパートと合わせる前に自分のパートの音程の確認をさせる ・音程の不安な部分については、後の練習で取り上げるので、チェックさせる
15	・小グループの確認をする ○メンバーはこのメンバーだったな ○リーダーとして頑張ろう ○リーダーと協力して歌おう ○うまく歌えるか心配だ ①音程がわからない ②音程がとれない場所がある ③声が小さくなる ④恥ずかしい ⑤その他	・グループ毎に挙手させて確認させる ・グループリーダーが意見を述べながら、練習を進めていくように促す ・うまく歌えない場合の練習方法を例示する ①パートの声が入っているCDで練習させる ②電気ピアノを弾いて音を確認する ③パート間の距離を空けて練習させる ④横で教師と一緒に歌うので、挙手等で連絡する ⑤その他
25	・小グループでの、合唱活動を行う ○ピアノ伴奏のCDで練習する ○パートの声が入ったCDで練習する ○電気ピアノで音取りをする ○パート間の距離を工夫する ○先生を呼んで一緒に歌う ○パートリーダーを中心に相談しながら合唱活動を行う ○伴奏係が電気ピアノで音程の不安定な部分を取り出して模奏する	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 活用力 ☆グループ練習の際に、自分たちの合唱を相互に聴き合いながら、問題点やよりよくなる方法を出し合い、適切な練習方法を取り入れ、改善に努めることができる(思考力・判断力) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 評価規準 ・各声部の役割を生かして、全体の響きに調和した合唱表現を工夫している <評価方法> 観察 </div> <p>※他の声部につられてしまう生徒には、音程の安定している生徒の隣や前で歌わせるよう並び方を工夫し、全体の響きを感じ取りながら歌えるよう指導する</p>
45	・まとめ ○評価カードを記入し、次時には小グループ毎に発表し、他のグループの演奏を聞くことを伝える	・今までのパート練習ではうまく出来たが、合わせてみるとうまくできなかった部分に着目させ、次時の課題意識を持たせる
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> まとめ 他のパートの響きを感じ取ることができたか </div>		